



www.alpajapan.org

日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

Date 2003.7.23

No 26 - 91

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

幹事会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770 FAX.03-5705-3274

E-mail:office@alpajapan.org

IFALPA IFE Committee (Frankfurt) 報告

- 世界のFE事情 -

6月24日、Frankfurt (ドイツ)でIFALPA IFE(International Flight Engineers) Committeeが開催されました。今回の参加国は、イギリス、イスラエル、インド、オーストラリア、ドイツ、フランス、南アフリカ、日本の8カ国でしたが、イラク戦争やSARSの影響に伴う減便等で各国ともFEを取り巻く環境は決して良いとはいえません。また、コンコルドの退役に代表されるように、各国とも3名編成機は相次いで退役を続け、働く場を失っているFEも少なくありません。本ニュースでは、各国のFE職場に関する報告について紹介します。

イギリス

英国航空(BA)のコンコルドは今年の10月25日をもって運航を終了しますが、コンコルドのFE 22名と、2001年10月以来運航を停止しているB747のFE10名の処遇については現在交渉中です。他のほとんどのFEはBA内の他職場に移るか、早期退職プログラムによって引退しています。

またBA以外に約60名のBritish ALPA (BALPA)メンバーのFEが、European Aviation Air Charter (EAAC), Dragonair, My Travel, Virgin Atlanticの各社でフライトしています。My Travelの2機のDC10以外は、すべてB747で運航されています。また、2003年の終わりに立ち上げられるDreamcatcher という会社が、2機の747-200と2機の747-400を導入する予定です。

イスラエル

国営EI-AI航空は5機のB747-200を運航しています(旅客機1機、コンビ2機、カーゴ2機)。現在27名のFEが乗務し、軍から来た4名のFEが訓練中です。イスラエルにはこのほか2機のB747-200を運航しているCALという民間の貨物会社があり、14名のFEが乗務しています。EI-AI航空では他の国営企業と同様に定年は65歳ですが、イスラエルの法律では、民間の航空会社に年齢制限がないため、EI-AIを退職したFEのうち何名かはCALで引き続き乗務しています。(70歳代のFEが存在しています!!)

インド

政府の方針で、国営のAir IndiaとIndian Airlinesでは、機材の更新が進み、現在残っている3名編成機はAir IndiaのB747-200 3機、B747-300コンビ2機、Indian AirlinesのA300-B4 4機です。

Air Indiaでは機材の退役に伴う解決策として定年退職時までFE以外の代替職場が用意されFEの



賃金が保障されます。FE以外の職に就かない場合は、それよりも若干減額された賃金が通常の定年時まで支払われます。Indian Airlinesでも、金銭的な解決に加え、今のところ4名がパイロットへの職変訓練中です。在来機の（退役）計画は、政府による介入要素も含め不明確です。

フランス

フランスでは、Air Ribが倒産しましたが、従業員はほぼ再就職を果たしているようです。Corsairは騒音対策をしてB747-200を今後も運航し続ける予定です。Air Franceでは5月にコンコルドがライン運航から退役し、13名いたFEは全員が退職の予定です。在来のB747は22機ありますが、2007年～2010年頃までに退役の予定です。退職に関する協定が結ばれ、FEは実質的な賃金増になっています。また4名がパイロットへの職変訓練を受けています。Air France以外のFEも同様の協定を目指して交渉中です。

南アフリカ

南アフリカ航空には65～70名のFEが在籍しています。機材はB747-300が11機で、すべてPAX機ですが、最近Engineトラブルが頻発しています。2004年頃からエアバス機へと徐々に入れ換えられる予定です。

オーストラリア

カンタスには現在53名のFEが在籍し、最年少は40歳台半ばです。国際線パイロットの定年が60歳ですが、FEの定年は55歳です。6機のB747-300と3機の-200があり、最近1機のCabin内装とCockpitのアップグレードが完了しましたが、残りの機材の改修については未定です。在来機は2006～7年までに全機退役し、A380やA340が導入される予定です。他にオーストラリアとグアムやフィジーの間をB727で運航している会社があり、22名のFEが在籍しています。

ドイツ

ルフトハンザでは、今年の3月に在来B747 PAX機の運航は終了し、ルフトハンザカーゴで現在6機のB747 Cargo機が運航されていますが、2～3年のうちに全機MD11に置き換えられる見込みです。FEは約120名で、今後毎年25～30名が定年退職していきます。（55歳以下は20名程度、最年少は49歳）在来機退役後は地上職への職変か、55歳以上であれば早期退職が選択可能で、個々人の希望に沿って対応される予定です。早期退職の場合、65歳の公的年金支給開始まで、企業から年金が支払われます。

ルフトハンザには最大で780名のFEがいましたが、職場確保の一環として希望者にはパイロットへの職変訓練を受ける機会が与えられ、1978年から最近まで続けられていました。最終的に390名のFEがライセンスを取得、355名がFULLY QUALIFIED PILOT、35名がCruise Relief Pilotになっています。

オランダ

在籍するFEがいなくなった為、今回の会議には欠席するとの連絡が来たとの事です。